

足し算の筆算「ふたけたの足し算のひっさん」 のやり方と書き方は？

ふたけたの足し算のかんがえかた

赤い花が 23本、白い花が 14本 さいて います。花は あわせて 何本なんぼん さいて いるか 考えましょう。

どんな「しき」で 計算（けいさん）が できるかな？

そう、「あわせて 何本なんぼん？」だから たし算だね。

しきは、 $23 + 14$ になるね。

でも、しきは つくれるけれど、計算するには 数字が 大きくて むずかしいよね。

そこで、「10の かたまりどうし」、「1の ばらどうし」を それぞれ わけて かんがえてみよう。

大きな数は、位を わけて 計算しよう

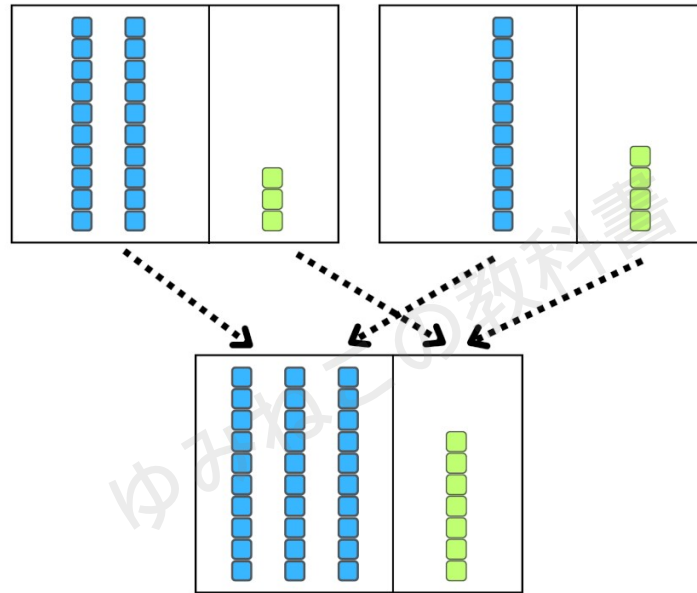
たとえば、23という数の「2」は 十の位くらい、「3」は 一の位 ということをおぼえて いるかな。

「10の かたまり」が 2こぶん

「1の ばら」が 3こぶん という いみだったよね。



「23」と「14」を、それぞれ 十の位くらいと、一の位に わけた 図 (ず) で かんがえて みるよ。



十の位と 一の位に わけたら、それぞれを たせばいいんだね。

10の かたまりは $2 + 1 = 3$

1の ばらは $3 + 4 = 7$

このように 考かんがえると、計算 (けいさん) が すごく かんたんになったね。

しき : $23 + 14 = 37$

こたえ : 花は あわせて 37本 さいて います。

ふたけたの数の 足し算

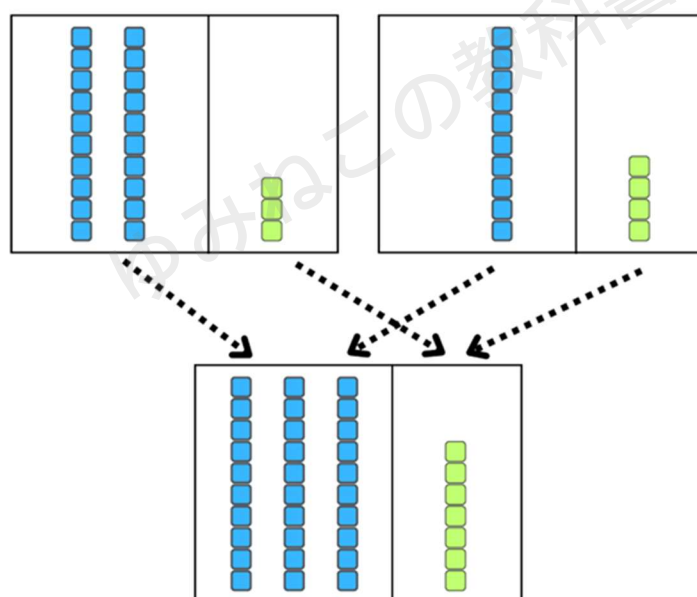
2けたの数のように、大きい数の 足し算をするときは、「10の かたまりどうし(十の位)」「1の ばらどうし(一の位)」のように、位にわけて 計算しよう!



位を たてに そろえて けいさんしよう

位に わけて 計算すると べんりなのは わかったね。

でも、さっきの図のように、十の位と 一の位の ばしょが そのままだと、いれかえたり しなくちゃいけなくて ちょっと わかりづらいよね。



それぞれの 数が どこに いくのか まいごに なりそうだよね。

なので、ふたけたの数 の 計算を するときには、位を たてに そろえて 計算を すると わかりやすくなるんだ。

たとえば、こんどは「 $32 + 15$ 」の 計算を するとするよ。

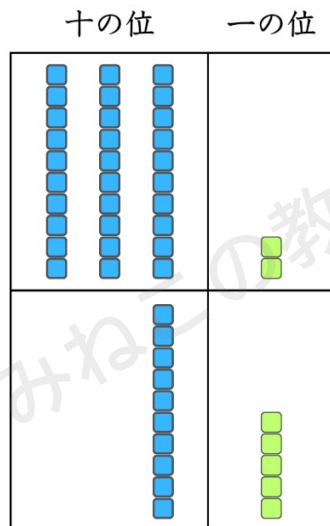
「 32 」の 十の位は「 3 」、一の位は「 2 」だね。

「 15 」の 十の位は「 1 」、一の位は「 5 」だね。



これを、位どうして たてに そろえて 書くんた。

図で かくにんして みよう。



これなら、上の数と 下の数を それぞれ たせばいいので、まいごに ならないね。

位を たてに そろえよう!

ふたけたの数の 計算を するとき、「十の位」と「一の位」を たてに そろえて 計算しよう!

でも、こうやって しかくとかの 図を 書くのは たいへんだよね。そこで、つぎに しょうかいするのが「筆算（ひっさん）」だよ。

筆算は、数字を つかって 書くことが できるよ。



筆算（ひっさん）とは？筆算の書き方

筆算（ひっさん）とは

「筆算（ひっさん）」とは、「紙に書いて計算する」という いみの ことばだよ。

計算の ほうほうは いろいろ あって、ほかにも

「あたまの中だけで 計算する」のを「暗算（あんざん）」
「そろばんを つかって 計算する」のを「珠算（しゅざん）」
「でんたくを つかって 計算する」のを「電卓計算（でんたくけいさん）」

などが あるよ。

「 $2 + 3 = 5$ 」のように、ひとけた だったら あたまの中だけで 計算する「暗算」でも かんたんかも しれないよね。

でも、ふたけたの数のように、大きな数だと、あたまの中だけだと ちょっと たいへんなときに、ほかの ほうほうを つかうことがあるよ。

そのひとつが、「筆算」で、こんかい がくしゅうする ほうほうだね。

では、「筆算」の やりかたと 書きかたを せつめいするよ。

ふたけたの足し算の筆算のやりかた

たとえば、「 $32 + 15$ 」の 計算を してみよう。



筆算は、「十の位」と「一の位」を、しかくとかではなくて 数字を つか
って 書けばいいだけだよ。

位は、さっきみたいに まいごに ならないように、それぞれ「10の か
たまり (十の位)」と「1の ばら (一の位)」を たてに そろえて 書
くよ。

そして、「この計算は 足し算だよ」ということが わかるように、左下には
「+ (たす)」マークを 書くよ。

そして、「足す数は これで 終わりだよ」という いみで、「ぼう」を
1本 よこに ひくんだ。

その「ぼう」の 下に、それぞれ「十の位」と「一の位」の 足し算の こ
たえを 書くよ。

位を たてに
そろえて 書こう。

十の位
 $3 + 1 = 4$

一の位
 $2 + 5 = 7$

十の位 は $3 + 1 = 4$

一の位 は $2 + 5 = 7$

だから、 $32 + 15 = 47$



筆算(ひっさん)の書き方

- ・「足される数」を書く
- ・「足し算をする」という いみの「+」マークを 左下に 書く
- ・「足す数」を十の位と一の位が たてに そろうように 書く
- ・「ここまで計算する」という いみの「ぼう」を よこに ひく
- ・ぼうの下に、十の位と一の位の 足し算の こたえを 書く

ふたけたと ひとけたの足し算の筆算のやりかた

2けたの数の 足し算の 筆算の書き方は わかったね。

では、もしも かたほうが「ひとけたの数」だったら どうなるのかな？

たとえば、「 $31 + 4$ 」の 計算の しかたを 考えてみよう。

「 31 」は 2けただけど、「 4 」は ひとけただよ。

かたほうが ひとけたでも、筆算の きまりを まもって 書けば だいじょうぶ！

そう、「十の位」と「一の位」を たてに そろえる きまりだよ。

では、さっきと 同じように たてに そろえて 筆算で 計算してみるよ。

4という数には、 10 のかたまり(十の位)は ないよね。
だから、一の位を そろえるんだ。



右がわを
そろえて 書こう。

十の位
 $3+0=3$

一の位
 $1+4=5$

筆算を するときには 右がわを そろえて 数を 書くよ。

ちゃんと、「十の位」の れつと、「一の位」の れつに きれいに ならぶ イメージかな。

ちゃんと そろえて ならばせないと、どこに ならんでいるのか わからなくなって しまうからね。

筆算を するときには、きれいに そろえて 書くことが たいせつだよ。

十の位は $3+0=3$

一の位 は $1+4=5$

だから、 $31+4=35$

ふたけたと ひとけたの数の 筆算の 書き方

ふたけたと ひとけたの数の ように、「けた」が ちがっても、「十の位」と「一の位」を たてに そろえて 書こう!

